

第43回水の週間実施報告書



令和元年12月

水の週間実行委員会

第43回水の週間中央行事は、後援機関及び協賛団体の 皆様のご支援・ご協力により開催されました。

主催機関

水循環政策本部
水の週間実行委員会

国土交通省

東京都

後援機関

文部科学省

厚生労働省

農林水産省

経済産業省

環境省

独立行政法人 水資源機構

公益財団法人 日本科学技術振興財団

日本放送協会

一般社団法人 日本新聞協会

協賛団体（五十音順）

公益財団法人 河川財団

一般財団法人 河川情報センター

一般社団法人 建設広報協会

一般社団法人 建設コンサルタンツ協会

一般財団法人 国土技術研究センター

一般財団法人 砂防・地すべり技術センター

一般財団法人 砂防フロンティア整備推進機構

一般財団法人 水源地環境センター

石油連盟

一般社団法人 セメント協会

一般社団法人 全国建設業協会

公益社団法人 全国建築物飲料水管理協会

一般財団法人 ダム技術センター

一般社団法人 ダム・堰施設技術協会

電気事業連合会

一般社団法人 日本埋立浚渫協会

一般社団法人 日本ガス協会

一般社団法人 日本橋梁建設協会

一般社団法人 日本経済団体連合会

一般社団法人 日本建設機械施工協会

一般社団法人 日本建設業連合会

一般財団法人 日本建設情報総合センター

一般社団法人 日本水道工業団体連合会

日本製紙連合会

一般社団法人 日本鉄鋼連盟

一般社団法人 日本電機工業会

一般社団法人 日本ホテル協会

一般社団法人 日本林業土木連合協会

一般社団法人 日本レストルーム工業会

ビール酒造組合

公益財団法人 リバーフロント研究所

水の週間実行委員会委員団体

全国水土里ネット

公益社団法人 日本水道協会

公益財団法人 利根川・荒川水源地域対策基金

一般財団法人 造水促進センター

全国簡易水道協議会

一般社団法人 日本治山治水協会

公益社団法人 日本下水道協会

公益社団法人 土木学会

公益社団法人 日本河川協会

一般財団法人 日本ダム協会

公益社団法人 農業農村工学会

一般社団法人 日本工業用水協会

独立行政法人 水資源機構

特定非営利活動法人 日本水フォーラム

(目 次)

第 43 回「水の週間」の開催にあたり	3
第 43 回「水の週間」行事の概要	5
水の週間中央行事「水を考えるつどい」	6
水の週間中央行事「水のワークショップ・展示会」	9
令和元年度水資源功績者表彰	16
第 41 回全日本中学生水の作文コンクール	18
一日事務所長体験	21
第 34 回水とのふれあいフォトコンテスト	23
上下流交流活動	27
水の週間打ち水大作戦	31
国・地方公共団体等における取り組み例	32
第 43 回水の週間新聞等報道状況	42
「水の週間」実施経過	44
水の週間実行委員会について	47

※表紙の写真は、第 34 回水とのふれあいフォトコンテストグランプリ「やな漁」：花一彦氏

※表紙のロゴマークは、平成 27 年に選定された「健全な水循環」に関するロゴマーク

「水の日」及び「水の週間」について

昭和 52 年 5 月 31 日

閣 議 了 解

水資源の有限性、水の貴重さ及び水資源開発の重要性について国民の関心を高め、理解を深めるため、「水の日」を設ける。

「水の日」は毎年 8 月 1 日とし、この日を初日とする一週間を「水の週間」として、この週間において、ポスターの掲示、講演会の開催等の行事を全国的に実施するものとする。

上記の行事は、地方公共団体その他関係団体の緊密な協力を得て行うものとする。

「水の日」及び「水の週間」制定の理由

わが国の水需要は、生活水準の向上、経済の進展等に伴って近年著しく増大してきたが、一方水資源の開発は次第に困難になっており、渇水時には水不足が生ずることが予想される状況となっている。

このような状況にかんがみ、毎年 8 月 1 日を「水の日」とし、この日を初日とする一週間を「水の週間」として、この週間において、水資源の有限性、水の貴重さ及び水資源開発の重要性に対する関心を高め、理解を深めるための諸行事を行うことによってわが国の水問題の解決を図り、もって国民経済の成長と国民生活の向上に寄与することとしたい。

なお、諸行事を行うためには、年間を通じて水の使用量が多く、水について関心が高まっている 8 月の上旬が適当であるので、その初日である 8 月 1 日を「水の日」とし、この日を初日とする一週間を「水の週間」とするものである。

水循環基本法（平成 26 年法律第 16 号）

第十条 国民の間に広く健全な水循環の重要性についての理解と関心を深めるようにするため、水の日を設ける。

2 水の日は、八月一日とする。

3 国及び地方公共団体は、水の日趣旨にふさわしい事業を実施するように努めなければならない。

平成 26 年 7 月 1 日に水循環基本法が施行され、8 月 1 日は、国民の間に広く健全な水循環の重要性についての理解や関心を深める日として、法律で定められた「水の日」となりました。

第 43 回「水の週間」の開催にあたり



水の週間実行委員会 むしあけかつみ 虫明功臣 会長

第 43 回目の「水の日」及び「水の週間」を迎え、本日ここに、「水を考えるつどい」を開催するにあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

まず初めに、本年度の水の日・水の週間行事の開催にあたり、ここにご列席の皆様のご理解とご協力を賜りましたことを、この場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。

昭和 52 年に「水の日」「水の週間」の取り組みが始まって 40 年余が経過いたしました。その間、我が国ではソフト・ハードの両面からなる様々な対策を講じた結果、水問題について相当程度の改善を進めることができました。しかしながら、ここ数年を振り返りましても毎年のように水災害が生じている状況にあります。

今夏も熊本・鹿児島での線状降水帯の発生により、「非常に危険」とされる豪雨に伴い、警戒レベル 4 相当の土砂災害警戒情報が発表されたところでもあります。西日本を中心に多くの地域で河川の氾濫や浸水害、土砂災害をもたらした平成 30 年 7 月豪雨、同じく西日本で記録的な大雨となり、甚大な被害をもたらした平成 29 年 7 月九州北部豪雨と、水害というのは、人々の暮らしを根こそぎ破壊するものであり、引き続き被害を軽減する対策への努力が肝要です。

一方で、水不足、渇水についても、度々発生しています。本年は、豊川水系の豊川用水の水源である宇連ダムで、34 年ぶりに貯水率がゼロになり、筑後川水系の両筑平野用水の水源である江川ダムでは、7 月 10 日に貯水率が約 10% まで落ち込みました。来年の東京オリンピックとパラリンピック、真夏の水需要が最も多い時期に、国内外から首都圏に多数の観客が集中してさらに水需要が増大することが予想される中、この重要な国際イベントを水の不安なくやり遂げることができるのかどうかについて点検し、万が一にでも、水不足にはしない備えをしておく必要があると思います。

世界に目を向けてみますと、水に関する議論については世界的にも年々関心が高まっております。本年 1 月に世界経済フォーラムが発表した報告においても、影響の大きいグローバルリスクの 4 番目に水危機が挙げられております。水危機には多様なものがありますが、水不足問題はそのうちの主要なひとつです。例えば、昨年、南アフリカ共和国ケープタウンにおいては、記録的な干ばつによって水不足が発生し、水道水の供給停止の間際までの状況になりました。また、今年 3 月には、フィリピン共和国の首都マニラにおいて、深刻な水不足により 100 万世帯超を対象とする計画断水が行われています。

世界では多くの水に関する国際会議が開催されております。来年 10 月には熊本市で第 4 回アジア・太平洋水サミットが開催されますが、アジア・太平洋水サミットは、アジア・太平洋地域の首脳級を含む関係者が参加し、アジア・太平洋地域の水に関する諸問題について幅広い視点から議論を行うことを目的とした国際会議です。開催地である熊本では、住民・企業・行政による連携・協働による地下水保全の取り組みがなされており、こうした経験を海外に発信することで、世界の水問題解決に寄与することが期待されています。

こうした国際会議の開催をはじめとして、人間活動の拡大や地球温暖化による気候変動など、環境変化から生じている水問題にも対応するため、世界の様々なところで水問題改善のための様々な取り組みがなされています。

このような状況を踏まえ、本年の「水の日」「水の週間」においては、健全な水循環の重要性、水資源の有限性、水資源開発・管理の重要性、水の恵みと脅威について、国民の皆様に広く理解と関心を深めていただき、今後水に関する防災や減災、持続可能な水利用の確保、さらには世界の水問題の改善、水インフラ整備の国際的展開、並びに我が国の今後の技術開発等といった取り組みにもつなげていけるよう、水循環政策本部、関係府省や都道府県等と連携し、全国で様々な取り組みを積極的に展開して参りますので、よろしくお願い申し上げます。

最後に、これから表彰されます、「全日本中学生水の作文コンクール」において優秀な成績を収められた方々に対して心からお祝い申し上げます、私の挨拶とさせていただきます。

令和元年 8 月 1 日

水の週間実行委員会会長 虫明 功臣

第 43 回「水の週間」行事の概要

行 事	実 施 内 容	主 催 者 等
水の週間中央行事	<p>1. 水を考えるつどい 日時:令和元年8月1日(木) 14:00~17:15 場所:パークタワーホール(東京都新宿区) 内容: ①主催者挨拶 ②第41回全日本中学生水の作文コンクール表彰式 ③上記作文コンクール最優秀賞受賞者による作文朗読 ④基調講演(東京大学名誉教授 虫明功臣) ⑤パネルディスカッション(笹川みちる、溝口宏樹、尾根田勝、金尾健司、平林由希子、渡邊紹裕)</p> <p>2. 水のワークショップ・展示会 日時:令和元年8月13日(火)~15日(木) 10:00~17:00 場所:東京国際フォーラム(ガラス棟G701会議室) 内容:「君の知らない水の世界~水の大辞典~」をテーマに、小学生の親子を対象として、水にまつわる様々なワークショップやパネル展示を実施。</p>	<p>主催:水循環政策本部、国土交通省、東京都、実行委員会(注)</p> <p>後援:文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、環境省、(独)水資源機構、(公財)日本科学技術振興財団、日本放送協会、(一社)日本新聞協会</p>
令和元年度水資源功績者表彰	水資源行政の推進に関し、特に顕著な功績のあった個人並びに団体に対して、国土交通大臣表彰を授与。	主催:国土交通省
第41回全日本中学生水の作文コンクール	「水について考える」をテーマとして、中学生を対象に水の作文コンクールを実施。 都道府県の各地方審査等を経た作品を中央審査会で審査し、優秀作品に対して最優秀賞(内閣総理大臣賞)等を授与。	<p>主催:水循環政策本部、国土交通省、都道府県</p> <p>後援:文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、環境省、全日本中学校長会、(独)水資源機構、実行委員会</p>
一日事務所長体験	全日本中学生水の作文コンクール優秀賞以上の受賞者の内、希望する者について在住地近隣の関係機関の事務所等において一日事務所長体験を実施。	
第34回水とのふれあいフォトコンテスト	健全な水循環の重要性や水資源の有限性、水の貴重さ、水資源開発の重要性について広く理解と関心を深めることに資する写真作品(例:「生命を支え、育む水」、「ダムや水路、水道など水をつくり、供給するもの」、「くらしの中の水」、「歴史とともにある水の風景」)を募集し、フォトコンテストを実施。優秀作品に対して、国土交通大臣賞等を授与。 また、若年層も含めてより広く作品を募集するSNS部門コンテストを実施。優秀作品に対して、各賞を授与。	<p>主催:実行委員会</p> <p>後援:国土交通省、東京都、(独)水資源機構</p>
上下流交流事業実施団体への助成	水資源の有限性、水の貴重さ及び水資源開発の重要性についての啓発や、ダム水源地域の振興に資する上下流住民の連携に関する活動を行う団体等に対し、助成を実施。	主催:実行委員会
施設見学会	ダムや浄水場などの水資源開発施設の見学会を各都道府県並びに(独)水資源機構等において実施。	主催:都道府県、(独)水資源機構ほか
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・全国各地で①講演会、②展示会など多彩な催しの実施 ・ポスターの配布・掲示 	

(注)「実行委員会」とは、「水の日」・「水の週間」の趣旨に賛同し、政府による「水の週間」の各種の啓発活動と一体となった諸行事を積極的に実施することを目的として、水に関係の深い団体により設立された「水の週間実行委員会」を指すものです。

水の週間中央行事「水を考えるつどい」



令和元年8月1日(木)、パークタワーホール(東京都新宿区)において、「水を考えるつどい」(主催:水循環政策本部、国土交通省、東京都、水の週間実行委員会)が開催され、およそ300名の方々にご来場いただきました。

主催者側から、藤田耕三国土交通事務次官、中島高志東京都都市整備局理事及び虫明功臣水の週間実行委員会会長が挨拶し、その後、「第41回全日本中学生水の作文コンクール」の表彰式が行われました。最優秀賞(内閣総理大臣賞)には、「水…時空を超えてすべてをつなぐ」と題し、宇宙にも水は存在し、その水と地球の水は時空を超えてつながっているという事実に驚き、建設中のダム見学を通じ、ダムは人と自然が共存するための手段であり、ダムと自然、地球と宇宙がつながりにより、私たちが口にする水ができることへの感慨を綴った福岡教育大学附属福岡中学校一年生の宇野誠洋^{まさひろ}さんの作文が選ばれ、賞状授与後に受賞作文の朗読が披露されました。

休憩を挟んで、水の週間実行委員会会長である虫明功臣東京大学名誉教授による基調講演と、NPO法人雨水まちづくりサポート笹川みちる理事、内閣官房水循環政策本部の溝口宏樹事務局長、東京都水道局の尾根田勝浄水部長、独立行政法人水資源機構の金尾健司理事長、芝浦工業大学土木工学科の平林由希子教授、京都大学の渡邊紹裕^{つぎひろ}名誉教授の6名により、「喝水を通じて水の有効利用を考える～水を賢く使う、長く使う～」と題したパネルディスカッションが行われ、盛況のうちに終了しました。

◆主催者挨拶



藤田耕三国土交通事務次官



中島高志東京都都市整備局理事



虫明功臣水の週間実行委員会会長

◆第41回全日本中学生水の作文コンクール最優秀作文披露



最優秀賞 宇野 誠洋^{まさひろ}さん
(福岡教育大学附属福岡中学校1年)

◆第41回全日本中学生水の作文コンクール 受賞者集合写真



◆基調講演



虫明功臣東京大学名誉教授（水の週間実行委員会会長）
「1964東京オリンピックを前にした水危機の克服～政官民が英知を結集した対応～」

◆パネルディスカッション



左より、笹川みちる氏 溝口宏樹氏、金尾健司氏、尾根田勝氏、渡邊紹裕氏、平林由希子氏

◆入賞作品等の展示



第41回全日本中学生水の作文コンクール



第34回水とのふれあいフォトコンテスト



パネル展示

「東京オリンピックまであと1年！渇水について考えてみましょう！！」

水の週間中央行事「水のワークショップ・展示会」

令和元年8月13日（火）から15日（木）までの3日間、東京国際フォーラム（東京都千代田区）が開催する「丸の内キッズジャンボリー2019」に参加し、この中で「水のワークショップ・展示会」を開催しました。

「君の知らない水の世界～水の大辞典～」をテーマに、小学生の親子を対象として、今年も多くの組織、団体により、水にまつわるワークショップ形式の催し並びにパネル展示及びブース出展が行われ、子供たちに水の大切さをより深く知っていただく機会としました。なお、開催期間中には、3,500名を超える方々にご来場いただきました。

〈丸の内キッズジャンボリーとは〉

2007年に東京国際フォーラムの開館10周年記念事業としてスタート。子供たちへの未来への夢を育む参加・体験型イベントは、丸の内の夏の風物詩として定着。参加した企業、団体、行政機関、NPO法人などは100を超える。2019年は延べ約11万5千5百人が参加。

◆展示会テーマ 「君の知らない水の世界～水の大辞典～」

【ワークショップ】

- | | |
|----------------------------|---------------------------|
| 「森林の働きとおいしい水」 | 【一般社団法人 日本治山治水協会】 |
| 「水道キャラバン 2019 ～東京の水道を学ぼう～」 | 【東京都水道局】 |
| 「気象キャスターが教える「天気と防災教室」 | 【特定非営利活動法人 気象キャスターネットワーク】 |
| 「びっくり！農業用水のふしぎ」 | 【公益社団法人 農業農村工学会／全国水土里ネット】 |
| 「でまえ授業 ～みんなの下水道～」 | 【東京都下水道局】 |

【展示等出展団体】

- ・東京都水道局
- ・東京都下水道局／GKP（下水道広報プラットフォーム）
- ・一般社団法人 ダム工学会／ダム工事総括管理技術者会
- ・公益社団法人 農業農村工学会／全国水土里ネット
- ・一般社団法人 日本治山治水協会
- ・国土交通省 関東地方整備局
- ・巧水（たくみ）スタイル推進チーム
- ・特定非営利活動法人 日本水フォーラム
- ・独立行政法人 水資源機構

「ワークショップ」



【一般社団法人 日本治山治水協会】 森林の働きとおいしい水

森林に降った雨はどこに流れていくのか、森林が育んだ水はなぜおいしいのかなどについて学習。また、3種類の森林の水（ミネラルウォーター）の試飲を行い、味の違いを体験。



【東京都水道局】 水道キャラバン2019 ～東京の水道を学ぼう～

東京都の管理する様々な水道施設を、映像を通じて見学。安全でおいしい水道水ができるまでの取り組みなどを実験も交えて学習。



【特定非営利活動法人 気象キャスターネットワーク】 気象キャスターが教える 「天気と防災教室」

大雨などの自然災害から身を守るにはどうすればいいか、テレビで活躍中の気象キャスターが、クイズや実験を交えて、親子で楽しく学習。



【公益社団法人 農業農村工学会／全国
水土里ネット】

びっくり！農業用水のしくみ

※運営

東京大学水利環境工学研究室

宇都宮大学農学部生産環境工学講座

東京農工大学水利環境保全学研究室

田んぼや畑にとって大切な農業用水の役割について、大学生による出前授業、ゲームやクイズを通じて学習。



【東京都下水道局】

でまえ授業 ～みんなの下水道～

「トイレトペーパー実験」、「沈でん実験」、「雨水ます実験」の3つの実験を通じて下水道の役割などについて学習。

「展 示 会」



【東京都水道局】

水道水の安全性及び安全確保の取り組みや水道水源林の働きについて、パネルやオゾン処理の実験装置等を用いて紹介。



【東京都下水道局／GKP（下水道広報プラットフォーム）】

下水道のしくみや役割、微生物などを紹介したパネル展示を実施。また、下水をきれいにするために重要な役割を持つ微生物を顕微鏡で観察。





【一般社団法人 ダム工学会／ダム工事
総括管理技術者会】

「本物・手作り・参加型」を基本に水力発電模型の実演やダムクイズなどを通して、来場者の疑問にダム博士が答えると共に、ダムへの正しい理解や知識についての啓発活動を実施。



【公益社団法人 農業農村工学会／全国
水土里ネット】

いのちを育む水の恵みや、農業を通じて育まれる文化や農村環境についてパネルで展示。また、水辺の生き物の展示やタブレット端末を活用した学習ゲームを実施。





【一般社団法人 日本治山治水協会】

森林が育む水について理解を深めてもらうため、森林の働き等をパネルで紹介。また、全国各地の森林（もり）の水（ペットボトル）の展示や各地の水を飲み比べる「利き水」を実施。



【国土交通省関東地方整備局】

国土交通省関東地方整備局が管理している河川やダムにおけるインフラツーリズムの取り組みについて紹介。



【巧水(たくみ)スタイル推進チーム】

「巧水（たくみ）スタイル」とは、賢く水を使う社会ということ。普通に生活をする中でこんなにも簡単に水を賢く使うことができるのだということを紹介。



【特定非営利活動法人 日本水フォーラム】

「打ち水やってみよう」をキーメッセージに展開する“打ち水大作戦 2019”をPRするパネル展示を実施。



【独立行政法人水資源機構】

専用ゴーグル使って、ダムの高さや大きさを体感してもらうVR鑑賞のほか、ダムの役割に関するパネル展示を実施。



令和元年度水資源功績者表彰

水資源行政の推進に当たって、水源地域の振興、水環境の保全、水源涵養、水資源の有効活用等に永年にわたって尽力されたことなど、特に顕著な功績のあった個人及び団体が、水資源功績者として表彰されました。表彰式は令和元年 8 月 5 日（月）に国土交通省特別会議室において執り行われ、石井啓一国土交通大臣から表彰状が授与されました。

〔個人〕 3名

受賞者	功績概要
安齋 保 (※) (北海道)	下川町長として、サンルダム建設事業を推進し、水資源の開発に貢献された。また、ダムの周辺整備計画を策定し、ダム活用について具体化するとともに、流域住民が参加する植樹を主催するなど、地域の活性化と水源林の整備に尽力された。
関 和典 (青森県)	西目屋村長として、津軽ダム建設事業を推進し、水資源の開発に貢献された。また、ダム完成後は水陸両用バスを導入したダムツーリズムを強力に推進するなど、地域振興に尽力されている。
平安 正盛 (鹿児島県)	知名町長として、沖永良部農業水利事業を推進し、地下ダムによる水資源の開発に貢献された。また、知名町地下水保全条例を制定し、沖永良部島において最も重要な水資源である地下水の保全に尽力された。

(※) 表彰式は欠席

〔団体〕 4団体

受賞者	功績概要
浦和レッドダイヤモンドズ株式会社 (埼玉県)	埼玉県が実施する上下流交流事業「水源わくわくセミナー」に参画し、上下流域における住民の相互理解の醸成や八ッ場ダムに係る普及啓発に大きく貢献している。
安曇野市 (長野県)	地下水や水循環など水資源に関する調査研究を行い、地域住民、事業者と協働して水資源の保全に係る活動を長年にわたり実施している。
岐阜県立恵那農業高等学校 (岐阜県)	阿木川ダムのダム湖の水質浄化を目的とした空芯菜の水耕栽培を実施している。収穫した空心菜は、地域住民による販売のほか、イベント等のPRに活用されており、地域の水質保全意識の向上を図るとともに、水源地域の活性化に寄与している。
佐賀東部土地改良区 (佐賀県)	広範囲にわたるクリーク（農業用排水路）の維持管理を通じて、水資源の有効利用に貢献している。また、土地改良区がクリークの多面的機能維持のための協定を締結した自治会の代表と水源地視察研修を実施するなど、地域と一体となって水資源の保全、有効利用を推進している。



令和元年度水資源功績者表彰 受賞者集合写真

第41回全日本中学生水の作文コンクール

全国の中学生及び海外日本人学校在学の日本人中学生を対象に、「水について考える」をテーマとする「第41回全日本中学生水の作文コンクール」を開催し、本年は290校より総数12,760編の応募がありました。各都道府県の地方審査、中央審査会の審査等により、最優秀賞1編、優秀賞9編及び入選32編（P20参照）が選ばれました。表彰式は令和元年8月1日（木）にパークタワーホールで開催された「水を考えるつどい」にて執り行われ、最優秀賞受賞者及び優秀賞の各受賞者に関係機関代表者から賞状が授与されました。また、各受賞者は表彰式の前に石井啓一国土交通大臣・水循環政策担当大臣を表敬訪問し、受賞の報告を行いました。

(1) 主催等

主 催：水循環政策本部、国土交通省、都道府県

後 援：文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、環境省、
水の週間実行委員会、独立行政法人水資源機構、全日本中学校長会

(2) 募集要領

①テ ー マ：「水について考える」（題名は自由）

②原 稿：400字詰原稿用紙4枚以内

(3) 中央審査会審査委員 ※ 50音順、敬称略 審査当時

石川 ^{よしなり}善成（農林水産省農村振興局整備部水資源課長
：内閣官房水循環政策本部事務局参事官）

熊谷 和哉（環境省水・大気環境局水環境課長：内閣官房水循環政策本部事務局参事官）

是澤 ^{これきわ}裕二（厚生労働省医薬・生活衛生局水道課長
：内閣官房水循環政策本部事務局参事官）

坂本 修（国土交通省大臣官房審議官：内閣官房水循環政策本部事務局審議官）

須磨 ^{すま} ^{かつえ}佳津江（キャスター）

玉野井 晃（公益社団法人 日本水道協会調査部長）

富岡 誠司（独立行政法人水資源機構理事）

長崎 宏子（元オリンピックスイマー）

宮田 正博（全日本中学校長会編集部部長）

守山 宏道（経済産業省経済産業政策局地域経済産業グループ地域産業基盤整備課長
：内閣官房水循環政策本部事務局参事官）

※ 表彰式の受賞者集合写真についてはP7をご覧ください。



第41回全日本中学生作文コンクール受賞者による大臣表敬訪問の様子

内閣総理大臣賞（最優秀賞）

水：時空を超えてすべてをつなぐ 福岡県

福岡教育大学附属福岡中学校 一年 宇野 誠洋うの まさひろ

私は水が大好きです。実は学校に毎日持っていく水筒の中身を水にしたいのだけれど、「お茶は栄養や殺菌効果があつていいのよ。」と母に言われて、無理に持たされず。しかし、走つて登校すると水筒のお茶は泡だらけで、飲んでも口の中がすつきりしません。結局学校の水道水を飲むことになりました。特にスポーツのあとは水に限ります。飲むとからだ中が透き通るような最高の気分になるからです。

先日、探査機「はやぶさ2」の成果で、小惑星リュウグウにも水があつたようだと発表されました。さらに、リュウグウの水と、私たちが飲んでいる地球の水は「生みの親」が同じらしいということに、私は大変驚きました。はるか宇宙の彼方にあるリュウグウとこの目の前の水道水はつながっていたのです。

そして理科で習つたように、そもそも飲み水となる雨は、地球の自然の原理で大昔から循環してきたものであり、この水も大昔の水の生まれ変わりとと言えます。

その水を利用して水道水が作られ、毎日私たちの体の中に水が入ってきます。体のほとんどが水できているという私たち人間にとつて、生きるのに欠かせない「水を飲む」という行為は、実ははるか遠い宇宙と、そして恐竜がいた太古の昔をつなげる、時空を超えてつながる行為だったので！地球上で植物は水を利用して成長し、それを食べて生きる草食動物を肉食動物が食べる、この食物連鎖で自然界は成り立っています。このように命をつなげていくことにおいても、すべての場面で水がないと始まりません。つまり、水は時空を超えてすべての命をつなげるものなのです。

春の訪れを感じる先日、私は現在建設中の小石原川ダムを見学しました。一昨年、九州北部大水害で被災した東峰村に位置する建設現場で、私は二つのことを学びました。

一つは自然保護のために、環境アセスメントを実施し、もともとそこにあつた環境を壊さないために、ていねいに徹底して保護活動をする姿勢です。小石原川ダムの場合、朝倉地方の豊かな自然の中にそれまで住んでいた動物達の保護や、貴重な種類の木を植え替える。そして仕方なく切った木を補償するため新たに植林しつつ野生の鹿に若木を食べられないように一本一本ていねいにカバーを掛けて保護するなど、樹木医も関わる活動を見学してその愛情を実行する行動に感動しました。

もう一つは自然の犠牲や負担、そしてコストを減らすために、現地の自然環境を最大限に生かして工夫する姿勢です。近くにある二つの山を門のように利用するアーチダムや、現地でとれる鉱物を利用したロックフィルダム、そして最終手段としてのコンクリートダムの選択など、ダムの形式を自然に優しい視点で選ぶ工夫がされていることを知り、その知恵の深さに思わずうなりました。

実は見学をする瞬間まで、ダム建設とは人間が生きていく上で欠かせない飲み水の確保のために、必要最低限自然を切り拓き壊すしかない行為だと思ひ込んでいました。ダムは人工物として最大の建造物であり、威風堂々とそびえ立つ恐ろしいくらいの人間の力を見せつける物のように見えていました。しかし事実は違いました。人間と自然が共存するための手段だということに気付きました。それは自然を大切にしつつ自然の一部である人間を生かす方法だと発見しました。この瞬間、ダムと大それた地球と宇宙がつながり一つになって透き通った水になり、静かに私の中に流れてきて、さわやかにからだ中がうるおいいっぱいになる感じがしました。

今日も水道水を飲みます。そしてあの日以来それはいつそうおいしくなりました。だって水を飲むたびに、無数の星々が輝く大宇宙を泳いでいる様な気持ちになれるのですから。

第41回全日本中学生水の作文コンクール入賞者一覧

賞名	都道府県名	作文の題名	ふりがな 氏名	学年	学校名
最優秀賞 内閣総理大臣賞	福岡県	水・・・時空を超えてすべてをつなぐ	うの 誠洋	1	福岡教育大学附属福岡中学校
優秀賞 厚生労働大臣賞	群馬県	自然の恵みが世界中に届くことを願って	ふくだ 優花	2	群馬大学教育学部附属中学校
優秀賞 農林水産大臣賞	宮崎県	水神様への感謝を現代に	かめおか 千愛	2	宮崎県立宮崎西高等学校附属中学校
優秀賞 経済産業大臣賞	群馬県	「世界水の日」について気づいたこと	まるやま 佳大	2	群馬大学教育学部附属中学校
優秀賞 国土交通大臣賞	神奈川県	ともに未来を望みて	やながわ 心菜	2	横浜国立大学附属横浜中学校
優秀賞 環境大臣賞	熊本県	ふるさとの水物語	ひらち 嬢子	1	熊本大学教育学部附属中学校
優秀賞 全日本中学校長会会長賞	佐賀県	水の二面性	きたむら 竜清	2	佐賀大学教育学部附属中学校
優秀賞 水の週間実行委員会会長賞	インドネシア 共和国	水という存在	きのした 結花	2	ジャカルタ日本人学校
優秀賞 独立行政法人水資源機構理事長賞	愛知県	人災を封じ災害を防ぐ	まの 真野 聡真	2	扶桑町立扶桑中学校
優秀賞 中央審査会特別賞	岩手県	水と共に生きる	おのてら 小野寺 麻緒	2	陸前高田市立高田第一中学校
入選（32編）	北海道	水を受け渡す	たけか 田近 峰々	3	長沼町立長沼中学校
	青森県	小さな行動 大きな結果	いとう 工藤 小陽	2	八戸市立是川中学校
	青森県	雨の秘めた可能性	はやし 林 かれん	2	八戸市立是川中学校
	青森県	水がうみ出すもの	つぎ 辻 啓生	3	むつ市立大湊中学校
	福島県	クニマスと水	さとう 佐藤 壮真	3	西郷村立西郷第二中学校
	茨城県	ホタルの光	あみなが 網永 莉々	1	土浦日本大学中等教育学校
	栃木県	水から学んだこと	さわい 澤井 優実	3	佐野日本大学中等教育学校
	群馬県	水の旅	はら 原 隆太	2	群馬県立中央中等教育学校
	群馬県	水とともに築く未来	ひろた 廣田 佳央	3	群馬大学教育学部附属中学校
	埼玉県	首都圏外郭放水路から水を思う	やまだ 山田 眞子	1	浦和実業学園中学校
	東京都	おいしい水は	ふるかわ 古川 真大	3	新宿区立新宿西戸山中学校
	神奈川県	湧水から学んだこと	こいずみ 小泉 晶絵	1	聖園女学院中学校
	神奈川県	技術の進歩によって失われるもの	ふじい 藤井 琴子	2	洗足学園中学校
	神奈川県	ホタルの棲む大岡川に	にしがわ 西川 眞由	3	洗足学園中学校
	富山県	私達がつなげる水のバトン	なかの 中野 友貴	2	高岡市立牧野中学校
	静岡県	巴川のいいところ、お伝えします。	いづみ 飯塚 颯	3	静岡市立清水第八中学校
	愛知県	黄金堤と吉良様	いしのか 石川 昂平	2	碧南市立新川中学校
	三重県	川の水のもたらす暮らしの豊かさ	よねやま 米山 百音	1	高田中学校
	京都府	有栖川の清掃活動	やました 山下 莉咲子	3	京都学園中学校
	大阪府	新しい時代につなぐ水	ふじやま 藤山 ゆかり	1	大阪教育大学附属池田中学校
	大阪府	水の行き先	ひらの 平野 暖奈	2	四條畷学園中学校
	兵庫県	かけがえのない大切な水	あまろ 天羽 悠月	3	神戸市立平野中学校
	和歌山県	美しい水と、共に。	おおむね 大棟 ひなり 日花莉	2	和歌山県立向陽中学校
	徳島県	新たな決意	かたえ 笠江 彰	3	阿南市立那賀川中学校
	愛媛県	水は限りある資源	あべ 阿部 裕介	2	今治市立大西中学校
	福岡県	水の現場で感じた感謝	うの 宇野 由里子	3	福岡教育大学附属福岡中学校
	佐賀県	治水と自然	たかもと 岡本 陽	3	佐賀県立唐津東中学校
	長崎県	持続可能な社会における水の重要性	くろだ 黒田 美也	1	学校法人九州文化学園 九州文化学園中学校
	熊本県	水の恵みに感謝する	やました 山下 真愛	2	玉名市立玉名中学校
	大分県	地域で守る葦川	とよ 土岐 百合子	3	大分西中学校
	宮崎県	水でつながる	きくち 菊地 心音	2	宮崎県立宮崎西高等学校附属中学校
	鹿児島県	もったいないをなくす	たかむら 高牟禮 華乃	3	出水市立高尾野中学校

一日事務所長体験

全日本中学生水の作文コンクールの優秀賞以上の受賞者を居住地近隣の国土交通省又は（独）水資源機構の事務所に招待し、一日事務所長体験として職場体験が実施されました。本年度は、優秀賞以上の受賞者9名が以下のとおり一日事務所長を体験しました（実施日順）。

○受賞者名 宮崎県立宮崎西高等学校附属中学校

かめおか ちさと
亀岡 千愛さん

優秀賞（農林水産大臣賞）

実施日 令和元年7月25日（木）

実施事務所 国土交通省九州地方整備局
宮崎河川国道事務所



○受賞者名 扶桑町立扶桑中学校

まの そうま
真野 聡真さん

優秀賞（独立行政法人
水資源機構理事長賞）

実施日 令和元年8月5日（月）

実施事務所 独立行政法人水資源機構
岩屋ダム管理所



○受賞者名 福岡教育大学附属福岡中学校

うの まきひろ
宇野 誠洋さん

最優秀賞（内閣総理大臣賞）

実施日 令和元年8月7日（水）

実施事務所 国土交通省九州地方整備局
筑後川ダム統合管理事務所



○受賞者名 陸前高田市立高田第一中学校

おの でら まお
小野寺 麻緒さん

優秀賞（中央審査会特別賞）

実施日 令和元年8月8日（木）

実施事務所 国土交通省東北地方整備局
北上川ダム統合管理事務所
胆沢ダム管理支所



○受賞者名 群馬大学教育学部附属中学校
福田 優花さん
優秀賞（厚生労働大臣賞）
実施日 令和元年8月14日（水）
実施事務所 国土交通省関東地方整備局
利根川ダム統合管理事務所



○受賞者名 群馬大学教育学部附属中学校
丸山 佳大さん
優秀賞（経済産業大臣賞）
実施日 令和元年8月14日（水）
実施事務所 国土交通省関東地方整備局
利根川ダム統合管理事務所



○受賞者名 熊本大学教育学部附属中学校
樋口 頌子さん
優秀賞（環境大臣賞）
実施日 令和元年8月21日（水）
実施事務所 国土交通省九州地方整備局
緑川ダム管理所



○受賞者名 佐賀大学教育学部附属中学校
北村 竜清さん
優秀賞（全日本中学校長会会長賞）
実施日 令和元年8月23日（金）
実施事務所 国土交通省九州地方整備局
武雄河川事務所



○受賞者名 横浜市立汐見台中学校
柳川 心菜さん
優秀賞（国土交通大臣賞）
実施日 令和元年8月26日（月）
実施事務所 国土交通省関東地方整備局
相模川水系広域ダム管理事務所



第34回水とのふれあいフォトコンテスト

主催等 主催 水の週間実行委員会
後援 国土交通省、東京都、独立行政法人水資源機構
協賛 富士フイルムイメージングシステムズ（株）

募集作品 健全な水循環の重要性や水資源の有限性、水の貴重さ、水資源開発の重要性について広く理解と関心を深めることに資する作品

例) ・生命を支え、育む水 ・くらしの中の水
・ダムや水路、水道など水をつくり、供給するもの
・歴史とともにある水の風景 など

○カラープリント部門

募集期間 平成31年4月30日（火）～ 令和元年6月14日（金）

応募状況 総計 1,811点

審査員（敬称略 審査当時）

中谷 吉隆（写真家） 坂本 修（国土交通省大臣官房審議官）
内田 勲（写真家） 佐藤 伸朗（東京都都市整備局長）
筑紫 ゆうな（切り絵作家） 永森 栄次郎（水の週間実行委員会運営委員長）

○SNS部門

募集期間 平成31年4月22日（月）～ 令和元年6月21日（金）

応募状況 総計 1,143点

審査員（敬称略 審査当時）

詩 歩（Shiho）（「死ぬまでに行きたい！世界の絶景」プロデューサー）
ひきたよしあき（株式会社博報堂クリエイティブプロデューサー）



河川 公益財団法人河川財団による
基金 河川基金の助成を受けています。

【カラープリント部門受賞作品】

〔グランプリ〕 1名

○ 国土交通大臣賞

「やな漁」

はな かずひこ
花 一彦 (岡山県)



〔優秀賞〕 3名

○ 東京都知事賞

「打ち水は人気者」

まつやま すすむ
松山 進 (神奈川県)



○ 水の週間実行委員会会長賞

「水路のある街」

かめおか いさむ
亀岡 勇 (千葉県)



○ 独立行政法人水資源機構理事長賞

「体験学習」

石村 國男 (福岡県)

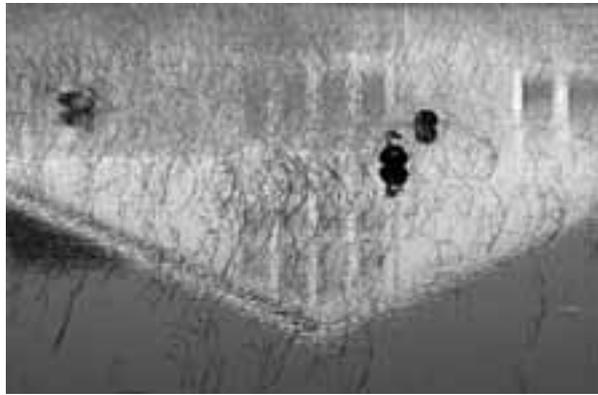


[特別賞] 1名

○ 審査員特別賞

「共生」

清水 進 (神奈川県)



[特 選] 5名

「巨大田んぼアートを描く」	山崎 俊泰 (静岡県)
「七色の水のカーテン」	磯崎 房美 (熊本県)
「栄光は誰の手に」	白山 健悦 (青森県)
「眼下の絶景」	西山 昌敏 (神奈川県)
「お雛流し」	谷野 隆 (山口県)

[入 選] 10名

「勇壮な神輿の川入れ」	竹島 和正 (東京都)	「水を張った広場」	田中 和夫 (神奈川県)
「利水の里」	高橋 直裕 (福島県)	「精霊流し」	五十嵐 敏紀 (秋田県)
「興味津々」	松田 裕次 (宮崎県)	「祈り」	日高 猛 (埼玉県)
「北山砲で虫送り」	鈴木 文代 (和歌山県)	「川遊び」	近藤 洋 (兵庫県)
「露天風呂」	竹尾 康男 (宮崎県)	「文化財を護る訓練」	齋藤 力 (東京都)

【SNS 部門受賞作品】

[グランプリ] 1名

yu_yu7.29

(on instagram)



[特別賞] 2名

Ayumi♂

(on twitter)



nyaoko550222

(on instagram)



上下流交流活動

水資源の有限性、水の貴重さ、水資源開発、健全な水循環の重要性について、国民の間に広く理解と関心を深めるため、ダム水源地域等の振興等に資する活動を行う団体に対し、助成に関する公募を行い、選考の上、以下に掲げる27団体（26件）に助成を実施しました。

No.	実施団体	名称・内容	日時・場所
1	三笠カヌークラブ	2019年第27回幾春別川カップ・イン・三笠 カヌーの普及や技術向上を目指し、川を通しての環境づくりや親睦を目的にして開催。 スラローム、ダウンリバー、フリースタイルの3種目で競った。	R1. 6. 15(土)～16(日) 北海道三笠市 (石狩川水系幾春別川)
2	岩見沢市	2019 ふれあい水ひろば 岩見沢市の上下水道の理解を深めることを目的として、利き水体験や、水を浄化する体験、給水タンク車の展示等を行う参加型イベントを実施。	R1. 8. 7(水) 北海道岩見沢市 (いわみざわ健康ひろば)
3	十勝川中流部市民協働会議	十勝ダム周辺緑化促進事業 十勝ダム湛水区域内における、侵略的外来種のおオアワダチソウ群落が、地域住民や十勝管内居住者にとっての憩いの空間となるよう、帯広市、上川郡新得町ほかから参加者を募り、在来種による緑化を実施。	R1. 10. 12(土) 北海道上川郡新得町 (十勝ダム)
4	岩木川環境公共ネットワーク協議会	第7回水資源環境フォーラム 「大切な水を、そして観光資源ともなる美しい景観を未来に残していく」ことを目的に、地域住民参加により実施。	R1. 8. 8(木) 青森県黒石市 (スポカルイン黒石)
5	石巻市立湊小学校	北上川の秘密発見～湊小4年生からのメッセージ～ 北上川の見学を通じて、川の役割を理解し、未来につなげることを目的に、北上川分流堰、脇谷閘門等を見学し、見学発表会を実施。	R1. 9. 2(月)ほか 宮城県石巻市 (石巻市立湊小学校ほか)
6	夏井川流域の会	夏井川流域住民主体の上下流交流促進事業 夏井川流域各地で住民が分担して水質調査を行う他、上下流の小学校児童が、情報の交換や水源地視察等を通じた上下流交流を実施。	R1. 6. 9(日)ほか 福島県いわき市ほか
7	ふるさとの川・荒川づくり協議会	幕滝探訪 荒川の源流域の一部である幕滝を訪れ、上流の森林の役割や水を大切に使う取り組みなど、上下流の解決すべき課題について理解を深め荒川の水環境を保全する目的で実施。	R1. 8. 24(土) 福島県福島市 (幕滝ほか)
8	NPO法人足尾に緑を育てる会	第20回足尾グリーンフォーラムフィールドワーク 渡良瀬川流域上下流の人々の交流を図るとともに、植樹活動に至る歴史的背景の認識を深めることを目的とし、上下流域を巡るフィールドワーク及びシンポジウムを実施。	R1. 7. 7(日)ほか 栃木県日光市足尾町ほか
9	墨田区太鼓連盟	「草木湖まつり」における上下流交流 草木ダムの竣工を契機とした、水源地域と同ダム受益地域の東京都の交流の一環として、東京都の和太鼓演奏団体による「草木湖まつり」における吾妻太鼓の演奏。	R1. 8. 15(木)～16(金) 群馬県みどり市 (東運動公園)

No.	実施団体	名称・内容	日時・場所
10	NPO 法人 森びとプロジェクト委員会	森の案内人実習に向けて 生態観察 植生、昆虫、爬虫類等の四季の観察を通じて、生物社会と人間社会のつながりを学ぶ目的で、「森の案内人」を養成する講座や、足尾町の松木川の水生生物等の調査を実施。	R1. 7. 21(日)ほか 栃木県日光市足尾町
11	NPO 法人 水のフォーラム	第7回上下流交流-ハッ場ダム編②ハッ場ダム・品木ダムを見に行こう 品木ダム水質管理所・品木ダムを見学、水資源開発原理・ハッ場ダムの必要性を学ぶ学習会を実施、試験湛水前直前の旧集落見学会を実施。	R1. 8. 24(土)～25(日) 群馬県吾妻郡長野原町 ほか (ハッ場ダムほか)
12	小鹿野町・川越市 いのちの水を訪ねる上下流交流事業実行委員会	小鹿野町・川越市いのちの水を訪ねる上下流交流事業 小鹿野町及び川越市在住の小学生及びその保護者による、県営合角 ^{かつかく} ダムの見学、河川清掃、利き水体験、魚のつかみ取りその他を実施。	R1. 8. 31(土) 埼玉県秩父郡小鹿野町 (合角ダムほか)
13	^{かんながわ} 神流川ビジョン 推進協議会	神流湖ゴミゼロ活動 群馬県と埼玉県の企業や NPO 法人等の他、水源地域のカメラ愛好家や地元の漁協・住民等が参加し、神流湖(下久保ダム湖)周辺の美化活動と上下流交流を実施。	R1. 5. 26(日) 埼玉県児玉郡神川町 (下久保ダム)
14	千葉県上下流交流事業実行委員会	ハッ場ダム上下流交流事業「水の大使 2019」 「水の貴重さ、大切さの発見」をテーマに、千葉県内の児童・保護者が、利根川上流水源地(ハッ場ダム建設地)となる群馬県長野原町を訪れ、地元小学校の児童、保護者等との上下流交流会を実施。	R1. 8. 7(水)～9(金) 群馬県吾妻郡長野原町
15	NPO 法人 木曾川・水の始発駅	奥木曾湖カヌー体験 木曾川源流を象徴する味噌川ダム「奥木曾湖」における“水の体験活動”を通じて、水の恵みや水源地域の歴史文化、更にはダムの機能などを楽しみながら体感してもらうことで、水資源や水源地域への理解を深めるきっかけ作りを目的に実施。	R1. 7. 31(水)～ 8. 19(月) 長野県木曾郡木祖村 (味噌川ダム)
16	岩屋ダム公開点検放流イベント実行委員会	岩屋ダムロックフィルダムフェス 下呂市と下流域自治体住民との交流、水源地域の振興、水資源の重要性についての啓発を目的に、岩屋ダムの公開点検放流、地元の名物料理や特産品の販売等を実施。	R1. 7. 28(日) 岐阜県下呂市 (岩屋ダム及び周辺)
17	愛知用水 土地改良区	愛知用水水源交流事業 愛知県半田市在住の愛知用水土地改良区関係者を対象として、水源地域(王滝村)での育樹作業並びに水源地域の現状及び今後の発展等に係る意見交換を実施。	R1. 8. 5(月)～6(火) 長野県木曾郡王滝村 (牧尾ダム周辺)
18	豊川総合用水 土地改良区	令和元年度豊川用水上下流交流事業 豊川用水の水源地である愛知県新城市在住の小学生とその保護者を対象に、上流域で貯えられた水が、下流域でどのように有効利用されているかについて学ぶ豊川用水施設見学を実施。	R1. 8. 2(金) 愛知県豊橋市及び田原市 (豊川用水施設周辺)

No.	実施団体	名称・内容	日時・場所
19	NPO 法人 地域と自然	よし笛コンサート「淀川源流物語」 淀川流域の市民の参加を得て、よし笛コンサートとともに、水が育む芸術と治水・環境などの情報を発信。	R1. 9. 19(木) 大阪府大阪市 (大阪中央公会堂)
20	NPO 法人 やなわねがわ 家棟川流域観光 船	次世代の子供達に自然環境体験学習 琵琶湖の自然環境及び水資源の大切さを学ぶ事業として、三重県、滋賀県、京都府及び大阪府の子供達による、生態調査を兼ねた、琵琶湖（あやめ浜）でのシジミの収穫体験を実施。	R1. 8. 10(土)ほか 滋賀県野洲市 (家棟川下流ほか)
21	余呉・姫里子ども 交流会実行委員 会・ 姫里地域青少年 育成会	第 32 回余呉・姫里子ども交流交歓会 淀川上下流の子どもたちの交流を目的に、水資源機構からの「水のはなし」を聞き、ふらばーるバレーボール大会やカップヌードルミュージアム等の見学を実施。	R1. 7. 27(土)～28(日) 大阪府大阪市ほか (姫里コミュニティ会館ほか)
22	あまわか 天若湖アート プロジェクト 実行委員会	天若湖アートプロジェクト 2019 日吉ダム建設時に水没移転した天若集落各戸の位置に LED 照明を浮かべ、かつての夜景を再現するイベントやアート展示を実施。下流域(大阪・京都)や地元から多数の見学者。	R1. 6. 1(土)～ 2(日) 京都府南丹市 (日吉ダム周辺)
23	NPO 法人 しんまちがわ 新町川を守る会	さめうら水源の森整備交流会 徳島県、香川県及び高知県嶺北地域住民の参加を得て、早明浦ダム周辺にて、保水機能の向上のため、単一林地を針葉樹・広葉樹の混合林地化する活動（広葉樹の植樹、下草の伐採）を実施。	R1. 6. 7(金)～8(土) 高知県土佐郡大川村 (早明浦ダム周辺)
24	四国中央市 湖水まつり 実行委員会	湖水まつり 四国中央市の発展の礎である水に対する恩恵の念、感謝の気持ちの醸成と嶺南地域の活性化を目的に、カラオケ発表会、ステージイベント、花火大会、各種バザー等を実施。	R1. 8. 3(土) 愛媛県四国中央市 (金砂湖畔公園)
25	NPO 法人 さめうらプロジェ クト	さめうら湖ウォータースポーツチャレンジ 2019 さめうら湖でのウォータースポーツ体験を通して、地域内外の人々に早明浦ダムの意義とさめうら湖の新たな活用による水源地域の活性化について関心を高め、地域振興を図ることを目的に、水上安全講習、バナナボート、水上バイク試乗等を実施。	R1. 8. 4(日) 高知県土佐郡土佐町・ 大川村 (早明浦ダム)
26	ウォーターフェス ティバル実行委員 会	ウォーターフェスティバル 2019 地域の活性化を図ることを目的に、「水源地の四季」や小石原川ダム建設紹介の放映、資料・写真の展示、参加者が自転車漕いで発電する「元気力発電」大会、鮎のつかみ取り、ウォーターアクティビティ、飲食物の販売、ワークショップ等を実施。	R1. 7. 28 (日) 福岡県朝倉市 (あまぎ水の文化村)

【実施状況（抜粋）】



小鹿野町・川越市いのちの水を訪ねる
上下流交流事業
(小鹿野町・川越市いのちの水を訪ねる
上下流交流事業実行委員会)



神流湖ゴミゼロ活動
(神流川ビジョン推進協議会)



愛知用水水源交流事業
(愛知用水土地改良区)



次世代の子供達に自然環境体験学習
(NPO 法人家棟川流域観光船)



さめうら湖ウォータースポーツチャレンジ 2019
(NPO 法人さめうらプロジェクト)



ウォーターフェスティバル 2019
(ウォーターフェスティバル実行委員会)

水の週間打ち水大作戦

令和元年8月5日（月）に、中央合同庁舎3号館正面玄関前にて「水の週間打ち水大作戦 in 国土交通省」を、平成27年以来4年ぶりに実施しました。（H28、29は渇水、H30は7月豪雨災害のため中止）

国土交通省では、平成16年度から「水の日」「水の週間」に併せて取り組んでおり、国土交通省職員の手作りによる「打ち水」イベントも今年で13回目となり、夏の恒例行事として知られるようになってきました。

打ち水は、原則として、お風呂の残り湯や下水再生水などといった二次利用水を活用するため、水資源の有効利用に結びつくだけでなく、ヒートアイランド対策にも貢献する取り組みとして、日本全国でも実施されています。なお、打ち水に使用する水は、東京都下水道局芝浦水再生センターより下水再生水約700リットルをご提供いただきました。

当日は好天に恵まれ、夏の日差しが降り注ぐ中、石井国土交通大臣をはじめ、工藤国土交通大臣政務官などの省幹部以下クールビズの国土交通省職員、はっぴ姿の東京都下水道局の職員、浴衣姿の令和元年度ミス日本「水の天使」西尾菜々美さん、（特非）日本水フォーラムや水資源功績者など総勢約150人が参加しました。「打ち水はじめ！」の号令とともに、一斉に撒かれた水により、打ち水前は約33.1℃だった地面の温度も、約32.7℃まで下がりました。

多くの方々に参加していただき、打ち水を通じて涼しさや水を賢く使う先人の知恵を実感し、水の有効利用について考えるきっかけの一つとすることができました。



打ち水風景

（左より、石井大臣、西尾菜々美さん、工藤政務官）



参加者集合写真

国・地方公共団体等における取り組み例

内閣官房をはじめとする国の機関や地方公共団体等においても、水に関する理解を深めるための活動が広範に実施されました。

こども霞が関見学デー ～水について考えてみよう！～

日時 令和元年8月7日（水）～8日（木）

場所 中央合同庁舎2号館低層棟共有会議室（東京都千代田区霞ヶ関2-1-3）

主催 国土交通省水資源部水資源政策課

＜巧水(たくみ)スタイル推進チーム（日本レストルーム工業会、日本バルブ工業会）、
特定非営利活動法人雨水(あまみず)まちづくりサポート協力＞

内容 水は、私たちみんなの貴重な資源であり、水が健全に循環することで、私たちはその恩恵を受けています。水の重要性への理解と関心を深めてもらうため、水の循環や水の恵み、水を大切に使う取り組み、水をとりまく現状などをパネルやパンフレット等で紹介。併せて、タブレット端末を使用した「巧水（たくみ）検定」を行い、クイズ形式で「水の賢い使い方」を学習してもらいました。

また、水循環に関する知識を楽しみながら身に付けることができる「水循環すごろく」を実施しました。参加者自身が雨つぶになった気持ちで自然界やまちの中をめぐり、私たちが普段使っている水がどこからきてどこへいくのか、そこにはどんな自然現象や人間が作った施設、機能関わっているのかを体験してもらいました。同時に、当団体の活動内容及び雨と共生するまちのあり方を提示したパネル展示を行いました。



ブース全体の様子



パネル展示の様子



「巧水（たくみ）検定」



「水循環すごろく」

※巧水（たくみ）スタイル推進チーム

節水意識の向上、節水型ライフスタイルの定着、節水機器・技術の普及等を目指し、産業界が中心となって、業界団体、学識者、地方自治体等が参画する活動チーム（2011年5月に発足。）

こども霞が関見学デー

～ “おいしい水” あります！ 水道水とミネラルウォーターを飲み比べてみよう！！～

日時 令和元年8月7日（水）～8日（木）

場所 中央合同庁舎第5号館2階講堂（東京都千代田区霞が関1-2-2）

主催 厚生労働省医薬・生活衛生局水道課

内容 水道水のおいしさを実感することができる「水道水とミネラルウォーターの飲み比べ」のほか、水道の重要性や水の大切さを学ぶことができる「パネル展示学習とクイズを組み合わせた“水のたびクイズ”」、耐震管模型を使って地震に強い水道管を学ぶことができる「耐震管 模型体験」を行いました。



水道水とミネラルウォーターの飲み比べ



パネル展示学習スペース



耐震管模型の展示・体験

こども霞が関見学デー

田んぼの水はどこからやってくる？～360° 動画で見よう！～

日時 令和元年8月7日（水）～8日（木）

場所 農林水産省 7階 研修室（東京都千代田区霞が関1-2-1）

主催 農林水産省 農村振興局

内容 農業水利施設の役割や田んぼの水がどこからやってくるのか判りやすく解説したVR動画による施設見学体験のほか、体験した児童に対し「水の恵みカード※」の配布を行いました。



VR動画による施設見学体験



水の恵みカードの配布

※水の恵みカード

地域の農産物と、その農産物の生産や健全な水循環を支える農業水利施設（水の恵み施設）の情報を掲載したカード。平成28年の水の日（8月1日）より配布を開始。

国土交通省内でのパネル展示

日時 令和元年8月26日（月）～9月6日（金）

場所 合同庁舎3号館1階正面玄関展示スペース（東京都千代田区霞が関2-1-3）

内容 令和元年度水資源功績者表彰受賞者の功績概要、第41回全日本中学生水の作文コンクール優秀作品、第34回水とのふれあいフォトコンテスト入賞作品、東京オリンピック・パラリンピック関連啓発パネル「東京オリンピックまであと1年！ 喝水について考えてみましょう！！」を展示し、国土交通省職員及び来庁者に水の大切さをPRしました。



パネル展示状況
(左：水の作文コンクール優秀作品、
右：水資源功績者表彰受賞者功績概要)



パネル展示状況
(「東京オリンピックまであと1年！ 喝水について考えてみましょう！！」)

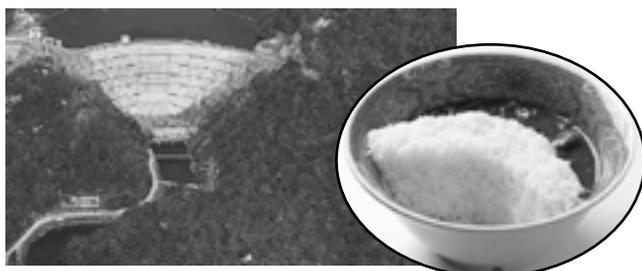
国土交通省ダムカレーの販売

日時 令和元年7月29日（月）～8月2日（金）及び
令和元年8月7日（水）～8日（木）

場所 合同庁舎3号館地下1階職員食堂
（東京都千代田区霞が関2-1-3）

内容 “森と湖に親しむ旬間（7/21～7/31）”と“水の週間（8/1～8/7）”のコラボ企画として、国土交通省ダムカレーを販売し、水の日をPRしました。およそ1日60食が販売され、連日売り切れの盛況でした。

また、“森と湖に親しむ旬間”と“水の週間”を一般の方にも広く認知してもらうため、子ども霞が関見学デーの期間（8/7～8/8）についても販売しました。



ダムカレーのモデルとなった矢木沢ダム



ダムカレーを食事の親子

【群馬県】令和元年度ぐんまウォーターフェア

日時 令和元年7月26日（金）～7月28日（日）

場所 ぐんまこどもの国児童会館 2階 多目的ホール 太田市長手町480

主催 群馬県

共催 公益財団法人 群馬県児童健全育成事業団

協力機関 独立行政法人 水資源機構

学校法人 前橋総合学園 前橋総合技術ビジネス専門学校

一般社団法人 群馬県浄化槽協会

人数 約1,400人（3日間合計）

内容 ぐんまウォーターフェアは、私たちの毎日の生活や産業活動等を支えている水の貴重さ、水力発電所やダム等の水資源施設の重要性について、県民の理解を深めてもらうために開催しています。

会場を訪れた小学生等が各コーナーのさまざまな実験や観察などを体験し、水の大切さや水資源施設の重要性について理解を深める内容としました。

また、開催期間中は主に中学生以下の来場者にクイズを実施しました。各コーナーに関する問題を掲示し、実験や係員の解説により解答してもらいました。



片栗粉と水を使った実験



ダムのパネル展示



ぐんまの魚の展示



利き水体験

【北海道釧路市】水の週間キャンペーン

日時 令和元年8月3日（土）

場所 釧路市観光国際交流センター

主催 釧路市上下水道部

共催 釧路市管工事業協同組合

人数 1,490人（延人数）

内容 釧路市では市民生活にとって大切なライフラインである水道・下水道事業の役割を広く知ってもらい、その重要性を再認識していただくことを目的に、水の週間の期間中である8月3日に「水の週間キャンペーン」を開催しました。

このイベントは平成28年度から実施しており、釧路市上下水道部と釧路市管工事業協同組合が協力して開催する「公民連携」の取り組みとなっています。

水道水、くしろ阿寒百年水（ボトルウォーター）、ミネラルウォーターを飲み比べる「きき水コーナー」をはじめ、「水道・下水道実験コーナー」、「水道・下水道クイズコーナー」、塩ビ管を使ったパットゴルフ等を行う「こども遊び場コーナー」などのブースを設置し体験してもらったことで、来場者の方々に水道・下水道事業の役割や重要性を知っていただけたと感じています。



きき水コーナーの様子



水道・下水道クイズコーナーの様子



水道・下水道実験コーナーの様子



【(一社) 日本レストルーム工業会】第1回「我が家の節水自慢」募集

日時 募集期間：平成31年3月1日（金）～令和元年5月31日（金）

結果発表：令和元年8月1日（木）

主催 一般社団法人 日本レストルーム工業会

入選 最優秀たくみ賞：1点、優秀たくみ賞：2点、たくみ賞入選5点

内容 水への関心を高め、節水を考える機会を提供し、ひいては節水機器の普及に寄与することを目的とし、巧水スタイル※1推進の一環として「我が家の節水自慢」（短文と写真・イラスト）を募集しました。

幅広い年齢層の方から多くのご応募をいただき、日頃の生活の中で水を大切にする工夫やアイデアが盛りだくさんで、ご応募いただいたみなさんの水や資源に対する愛情を感じることができました。入選者は8月1日の「水の日」にあわせ、工業会ホームページ等で発表しています。

※1 巧水スタイルとは、「水を賢く使う社会」の実現のために、日本が世界に冠たる水の国、巧水（たくみ）の国になっていけるよう、産学官の連携によって「節水意識」の向上と「節水化技術」、「節水化システム」の普及・啓発を図る活動によって目指す社会のキーワードです。



募集チラシ



第1回「我が家の節水自慢」募集
最優秀たくみ賞 受賞作品

【雨水ネットワーク】第12回 雨水ネットワーク全国大会 2019in 福岡

日時 令和元年8月23日（金）～8月24日（土）

場所 福岡大学

主催 雨水ネットワーク全国大会 in 福岡実行委員会

人数 150名（2日間延べ参加者数）

内容 『雨水ネットワーク』（<http://www.rain-net.jp>）は、雨水活用や雨を主とした水循環系の健全化等に関わる市民・企業・行政・学会等が形成する“緩やかな情報のプラットフォーム”で、2008年に設立されました。設立以降、全国各地を巡り毎年8月に雨水活用に関する最新情報の共有、各地での活動報告を行う「全国大会」を実施しています。

今年で、12回目を迎える全国大会は、近年、豪雨災害が頻発している九州、福岡で「SDGsから水循環のこれからを考える～風かおり、緑かがやく、あまみず社会の実現に向けて～」をテーマに開催されました。

1日目には、“みんなで討論”と題し、ワールドカフェ形式で『あまみず技術』、『コミュニティのデザイン』、『あめ庭』、『認証と制度』というテーマに沿って参加者それぞれの立場から討論をしました。

2日目には、国土交通省をはじめ、雨水活用や水循環に関する施策や活動の話題提供があり、その後参加者全員で、大会テーマについて、今すぐに行えること、少し時間の掛かりそうな取り組み、じっくりと時間を掛けて取り組むべきことなどについて討論を行いました。午後には、福岡大学のあまみず浸透グラウンドをはじめ、周辺にある雨水実験住宅、雨水活用を取り入れたカフェ、上西郷川のグリーンインフラ事例などの施設見学も実施しました。



ワールドカフェ方式での討論の前の話題提供



ワールドカフェ方式での討論の様子



2日目の話題提供の様子



あまみず浸透グラウンド見学の様子

広報の取り組み

水資源の有限性や水の貴重さについての理解と関心を深めるために積極的な広報を行いました。

○「水の日」ポスターの掲出

期間 令和元年7月1日（月）～ 令和元年8月7日（水）

場所 関係府省庁、都道府県、市町村、中学校、東京メトロ（16駅）等で掲出

内容 国民の間に広く健全な水循環の重要性についての理解と関心を深めるために、「水の日」ポスター約20,000枚を作成、掲出し、「水の日」について周知しました。



水の日ポスター



東京メトロ 霞ヶ関駅

○WEBコンテンツにバナー広告の掲載

掲載サイト名 Yahoo、twitter、facebook、instagram

掲載期間 令和元年7月9日（火）

～令和元年7月31日（水）

広告文 8/1「水を考えるつどい」開催

水の貴重さ及び水資源開発の重要性について一緒に考えてみませんか？

内容 水、自然、環境などのキーワードを検索したユーザーを中心に広告を配信。バナーは「水の日・水の週間ウェブサイト」(<http://www.mizunohi.jp/>)にリンク。



バナー広告掲載例

○メディアキャラバンの実施

7月12日(金)に、ミス日本「水の天使」の西尾菜々美さんと「水の日(8月1日)」関連行事のPRを行うためメディアキャラバンを行い、主要な新聞やスポーツ新聞、ウェブサイト(ニュースサイト)等で取り上げられました。

掲載媒体一覧

- 【新聞】7月17日 読売新聞
7月19日 サンケイスポーツ、
7月20日 夕刊フジ
7月30日 スポーツニッポン
- 【WEB】7月12日 朝日新聞デジタル



取材風景

○新聞の広告掲載

掲載新聞 東京新聞

掲載日 7月4日、7月10日、7月18日

内容 一般の方に「水を考えるつどい」の訴求効果を高めるため、開催1ヶ月前から実施まで東京新聞に3回広告掲載を行いました。

～8月1日は「水の日」～
令和元年度「水を考えるつどい」(参加無料)開催!!

毎年8月1日は、水の大切さを考える「水の日」。そして8月1日から8月7日は「水の週間」です。

今年8月1日(木)の「水を考えるつどい」は、新宿区のパークタワーホールにて開催。東京オリンピック・パラリンピック開催を来年に控え、前回東京オリンピック前の湯水経験を踏まえ、「湯水を通じて水の有効利用を考える」をテーマに基調講演、パネル討論が開催されます。あわせて「全日本中学生水の作文コンクール」の表彰式も実施。参加申込はメールで、①氏名(ふりがな) [団体申込の場合は連絡担当者] ②電話番号 ③職場・会社名 ④参加人数及び参加者全員の役職と氏名(ふりがな) [(③④は団体申込の場合のみ)]を記入し、水の週間実行委員会事務局(info@mizunohi.jp)まで。7月21日(日)17時締切。お問い合わせは水の週間実行委員会事務局(電話048-600-6513/info@mizunohi.jp)へ。

※申し込まれた方は、水の週間実行委員会事務局から返送するメールを印刷し、当日持参としてご持参ください。



7月4日 東京新聞掲載

第43回「水の週間」（令和元年度）都道府県行事一覧

項目 都道府県名	ポスター	パンフレット	映画会・音楽会・研修会 講演会・シンポジウム等	上下流交流 施設見学会等	街頭 アンケート	展示会等	水の作文 コンクール	広報・PR活動等					
								テレビ	ラジオ	新聞	広報紙	ホームページ	懸垂幕・横断幕 電光掲示板・立看板
全国	47	6	9	26	7	22	47	5	8	15	17	40	12
北海道	○		☆	☆		◎	◎				☆	◎	
青森県	○		☆				◎					○	
岩手県	○						◎					○	
宮城県	○	◎		☆	◎	◎	◎			◎		◎	
秋田県	○						○						
山形県	○						○				☆	○	
福島県	○		☆			☆	◎			○	☆	◎	☆
茨城県	○			○		○	◎					○	
栃木県	○	◎		☆			◎		○			○	○
群馬県	○		○	○		○	◎			○		○	
埼玉県	○			◎			◎				◎	◎	◎
千葉県	○			○		○	◎				◎	○	○
東京都	○			○		○	◎					○	
神奈川県	○			◎	○	○	◎				◎	○	
新潟県	○						◎			○		○	
富山県	○			○			◎			◎			
石川県	○			☆			○						
福井県	○			☆		○	○			☆	☆		
山梨県	○	◎		☆		○	○				☆	☆	
長野県	○	◎				○	○						○
岐阜県	○					◎	◎					○	
静岡県	◎		○	☆		☆	◎	☆	◎	◎	◎	◎	
愛知県	○			◎		○	◎				○	○	
三重県	○			○			◎					○	
滋賀県	○						◎			○		○	
京都府	○			☆		○	◎		☆			◎	
大阪府	○		☆	☆	☆		◎	☆			☆	◎	☆
兵庫県	○			○		☆	◎	☆			☆	◎	☆
奈良県	○			◎		◎	◎					○	
和歌山県	○						◎					○	
鳥取県	○		○	☆			○			○		○	
島根県	○						◎			○	◎	◎	
岡山県	○						○						
広島県	○						◎					◎	
山口県	○						◎					○	
徳島県	○			○	○		◎			○		○	○
香川県	○	◎		◎		○	◎		○		○	○	
愛媛県	○			☆		◎	◎					◎	◎
高知県	○			☆	◎		○					○	
福岡県	○				◎		◎		○	○	○	○	○
佐賀県	○					○	◎					○	
長崎県	○						◎			☆	☆	◎	
熊本県	○		◎		☆		◎					○	
大分県	○						◎	○	○				○
宮崎県	○						◎		○	○		○	
鹿児島県	○		☆	☆		☆	◎	☆	☆	☆	☆	◎	☆
沖縄県	○	◎					◎					○	

注)「ポスター」欄の○は、全国共通版(国土交通省作成)を配布したことを示し、◎は都道府県等で独自に作成したのもも配布したことを示す。

「パンフレット」欄の◎は、都道府県等で独自に作成したものを配布したことを示す。

「作文コンクール」欄の◎は、都道府県レベルでの「地方表彰」を行っていることを示す。

それ以外の○は、都道府県が独自に取り組んでいることを示し、◎は都道府県に加え市町村等が独自に取り組んでいることを示す。

☆は市町村等のみが独自に取り組んでいることを示す。

第43回水の週間 新聞等報道状況

月 日	都道府県	新聞名等	地域	見 出 し
12月27日	沖縄県	宮古毎日新聞	地方	中学生「水の作文」コン 仲地さんが優秀賞 新里さんから3人は入選
1月16日	沖縄県	沖縄タイムス	地方	水の作文コンで仲地さん県代表 中学生6人知事表彰
6月8日	福島県	福島民報	地方	優秀賞に5作品 中学生水の作文県コンクール 全国に出品へ
6月8日	福島県	福島民友	地方	佐藤さん(西郷二中)ら優秀賞 水の作文県コンクール
7月1日	神奈川県	観光かながわNOW	地方	第3回秦野名水フェスティバル(秦野市)
7月4日	東京都	東京新聞	全国	～8月1日は水の日～令和元年度「水を考えるつどい」開催
7月9日	北海道	北海道新聞	地方	札日大中・古瀬さん 作文が全道入選
7月10日	東京都	東京新聞	全国	～8月1日は水の日～令和元年度「水を考えるつどい」開催
7月12日	東京都	朝日新聞デジタル		A・RINGへようこそ ミス日本「水の天使」
7月12日	東京都	土木学会情報サイト		令和元年度「水の日」記念行事「水を考えるつどい」
7月12日	神奈川県	タウンニュース	地方	名水フェス参加者募集
7月14日	神奈川県	神奈川新聞	地方	英選手と葉山町民がレース ヨットフェスで交流
7月14日	香川県	西日本放送(ラジオ)	地方	節水チャレンジについて
7月17日	東京都	読売新聞	全国	水の日催し「天使」がPR
7月18日	東京都	東京新聞	全国	～8月1日は水の日～令和元年度「水を考えるつどい」開催
7月19日	東京都	サンケイスポーツ	全国	8月1日は「水の日」…水の重要性を再認識
7月19日	東京都	夕刊フジWEB		8月1日は「水の日」「水を考えるつどい」開催
7月19日	神奈川県	タウンニュース	地方	クイズラリーで名水探訪
7月20日	岩手県	東海新報	地方	気仙で唯一の受賞「水の作文」コン優秀賞 高田第一中の小野寺さん
7月20日	東京都	夕刊フジ	全国	8月1日は「水の日」「水を考えるつどい」開催
7月22日	岩手県	盛岡タイムス	地方	岩崎志保さん(渋民2年)らに県が賞状授与式 中学生水の作文コンクール
7月23日	岐阜県	岐阜新聞	地方	うだつの町に一服の涼 ～浴衣姿で醸す風情～
7月24日	埼玉県	春日部経済新聞	地方	春日部で子どもたちが打ち水 本格的な暑さ到来に向け
7月25日	愛知県	名古屋テレビ	地方	あいちの農業用水展の開催
7月25日	熊本県	熊本日日新聞	地方	全日本中学生水の作文コンクール 樋口さん優秀賞
7月26日	滋賀県	京都新聞	地方	滋賀県中学生水の作文コンクール(最優秀賞、優秀賞2作品の全文掲載)
7月27日	岩手県	デーリー東北	地方	馬場さん(宿戸中)佳作入賞 水の作文県コン 海守る思いつづる
7月27日	栃木県	栃木放送(ラジオ)	地方	県政ナビ(「水の日・水の週間」)
7月27日	群馬県	上毛新聞	地方	実験、観察通し 水の大切さ知る
7月27日	岐阜県	中日新聞	地方	うだつの町を涼しく ～浴衣姿で打ち水～
7月30日	東京都	スポーツニッポン	全国	8月1日は「水の日」「水の天使」参加
7月30日	東京都	毎日新聞WEB		「水の天使」西尾菜々美さん 8・1水の日のイベント参加
7月30日	東京都	スポニチ・アネックス		「水の天使」西尾菜々美さん 8・1水の日のイベント参加
7月31日	群馬県	上毛新聞	地方	「水の日」「水の週間」パネル展
8月1日	神奈川県	神奈川新聞	地方	最優秀に西川さん(水の作文関連記事)
8月1日	神奈川県	神奈川新聞	地方	「名水の里」PRきょう市が催し
8月1日	富山県	北日本新聞	地方	きょう8月1日は「水の日」
8月1日	富山県	北日本新聞	地方	中学生水の作文 6人入賞・入選 県あす表彰
8月1日	山梨県	テレビ山梨	地方	小学生が荒川ダム見学 水資源の大切さを学ぶ
8月2日	群馬県	上毛新聞	地方	全日本中学生水の作文コンクール 優秀賞
8月2日	岐阜県	岐阜新聞	地方	発見いっぱい徳山ダム ～深さ127メートルの設備、夏もひんやり～
8月2日	愛知県	朝日新聞	地方	あいちの農業用水展
8月2日	島根県	読売新聞	地方	涼しくなあれ「打ち水大作戦」

月 日	都道府県	新聞名等	地域	見 出 し
8月3日	富山県	富山新聞	地方	中学生6人表彰 県の水作文コンクール
8月3日	長野県	信濃毎日新聞	地方	猛暑、打ち水で勝て 善光寺参道
8月3日	長野県	中日新聞	地方	松本城公園、エコにひんやり 松商生徒ら打ち水
8月3日	長野県	市民タイムス	地方	涼を呼ぶ打ち水 お城公園などで大作戦
8月3日	岡山県	中国新聞	地方	「水の日」水源に感謝 高梁川取水口で安全祈願
8月4日	福井県	日刊県民福井	地方	アユとったぞー 勝山 荒土小で体験学習会
8月4日	福井県	日刊県民福井	地方	大野の河川 イトヨの生息 中学生が調査
8月4日	愛知県	中日新聞	地方	木曾川水系にすむナマズなどを紹介 一宮で農業用水展
8月5日	北海道	釧路新聞	地方	百年水 利き水でアピール
8月5日	東京都	水道産業新聞	全国	水循環への関心訴え、水の有効利用を考える
8月5日	福井県	福井新聞	地方	イトヨ守れ 生徒ら清掃
8月6日	長野県	市民タイムス	地方	市の水資源行政 国が表彰 地域と協働で保全 評価
8月6日	愛知県	日本農業新聞	地方	県民の理解へ農業用水展
8月6日	大阪府	ケーブルテレビJ.COM	地方	池田市下水処理場体験見学会(「デイリーニュース北摂」で放送)
8月6日	和歌山県	テレビ和歌山	地方	水の水作文コンクール
8月6日	宮崎県	宮崎日日新聞	地方	水の水作文全国中学生コン 亀岡さん優秀賞 菊池さんは入選
8月7日	静岡県	静岡新聞	地方	水の水作文審査 最高賞の2作品 県庁で表彰式
8月7日	兵庫県	サンテレビ	地方	「芦屋の水」配布 飲み比べておいしいのは？
8月7日	鹿児島県	南日本新聞	地方	ヤマメ捕り親子連れ歓声
8月8日	埼玉県	埼玉新聞	地方	打ち水で涼演出 本庄でイベント
8月8日	東京都	東京新聞	全国	～8月1日は水の日～「全日本中学生水の水作文コンクール」受賞作品発表
8月8日	神奈川県	タウンニュース	地方	「水の水作文」で国交大臣賞
8月8日	大阪府	ケーブルテレビJ.COM	地方	池田打ち水大作戦2019(「デイリーニュース北摂」で放送)
8月8日	和歌山県	和歌山放送(ラジオ)	地方	大棟さん(向陽中)が全国入選 中学生水の水作文コンクール
8月8日	和歌山県	和歌山放送ニュース		第41回「全日本中学生水の水作文コンクール」
8月8日	愛媛県	愛媛新聞	地方	松山で児童ら水源守る大切さ学ぶ
8月9日	岩手県	岩手日報	地方	小野寺さん(高田一中)一日所長 胆沢ダム管理支所 水の水作文優秀賞で初任命
8月9日	福島県	福島民報	地方	受賞者に表彰 全日本中学生水の水作文県審査
8月9日	福島県	福島民友	地方	県中学生水の水作文 入賞者をたたえる
8月13日～15日	和歌山県	和歌山放送(ラジオ)	地方	第41回「全日本中学生水の水作文コンクール」表彰式(朗読)
8月14日	岩手県	岩手日報	地方	小野寺さん(高田一中)優秀賞 全日本水の水作文
8月14日	宮城県	河北新報	地方	涼呼ぼう「仙台・一番町」心温かに 打ち水じゃ 児童も体験
8月14日	宮城県	読売新聞	地方	夏の節電へいざ打ち水
8月14日	宮城県	産経新聞	地方	省エネで暑さ乗り切れ 仙台で打ち水イベント
8月15日	宮城県	毎日新聞	地方	打ち水でヒンヤリ 竹灯籠で幻想の世界も
8月16日	千葉県	上毛新聞	地方	千葉の児童と魚つかみ捕り
8月17日	福岡県	西日本新聞	地方	「水の水作文」宇野さん日本一
8月18日	岩手県	岩手日報	地方	川面照らし昇る送り火 盛岡船っこ流し
8月18日	岩手県	盛岡タイムス	地方	北上川に炎揺らせて 盛岡船っこ流し 暑さ残し送り盆行事
8月23日	埼玉県	埼玉よみうり新聞	地方	涼体感 市民一斉打ち水大作戦
8月23日	新潟県	新潟日報	地方	海、川の大切さ生き生きと描く県ポスター・作文コン表彰式
8月29日	宮崎県	宮崎日日新聞	地方	ひと「全日本中学生水の水作文コンクール」で優秀賞を受賞した 亀岡千愛さん
9月10日	東京都	月刊ダム日本	全国	水の週間 中央行事を開催(カラー2ページ写真レポート)

「水の週間」実施経過

メインスローガン「水ーこの限りある貴重な資源」「水は限りある貴重な資源です」

(国土庁発足 S49. 6. 26)

(国土交通省に再編 H13. 1. 6)

(水循環政策本部発足 H26. 7. 1)

年・回	サブスローガン	ポスターキャッチフレーズ	実施事項	備考
昭和 52 (1)	貴重な水・あなたと一緒に考えたい	水の用心	○水の週間展示会（国土庁会議室） （ポスター、パンフレット） ○第 1 回水資源に関するシンポジウム （10. 25）	・水の週間閣議了解（5. 31） ・国連水会議（3. 14 ～ 25） ・第三次全国総合開発計画閣議決定
昭和 53 (2)	水の価値をみなおそう 水源地域の人々に感謝しよう 水とのふれあいのなかで……	水も難局だナ	○ウォーターフェア’ 78 （銀座 松屋）	・水の週間実行委員会設立 （5. 8、11 団体） ・長期水需給計画策定 ・福岡渇水
昭和 54 (3)	水源地域の人々に感謝しよう 水の大循環の中で私たちは… 限りある水ーいまこそいかそう私 たちの智恵ー	育てよう水 ー足どり確かに、 一歩一歩。ー	○ウォーターフェア’ 79 （船の科学館） ○第 1 回全日本中学生水の作文コンク ール ○水資源功績者表彰 ○ウォーターフェアふくおか（福岡市）	・水資源世論調査
昭和 55 (4)	節水型社会をめざして 上下流の連帯を育てよう	貯めましょう日本の水 ーみんなの水を、みんなの水 で。ー	○ウォーターフェア’ 80 東京 （科学技術館） ○上下流交流運動	・地域水需給計画推進 ・沖縄渇水
昭和 56 (5)	水源地の人たちに感謝しまし いのちの水・水とののであい。	今日の水・明日の水 ー水みんなの和で 育てよう。ー	○ウォーターフェア’ 81 東京 （科学技術館） ○第 1 回ウォーターフェア隅田川 レガッタ ○ウォーターフェアポートピア （兵庫県）	・水研究協力校の指定
昭和 57 (6)		丈夫な水に育てたい。	○ウォーターフェア’ 82 東京 （科学技術館） ○第 2 回水資源に関するシンポジウム （8. 3 ～ 5）	・長崎水害
昭和 58 (7)		やさしい、水、好き。	○ウォーターフェア’ 83 東京 （科学技術館）	・これより毎年、水資源白書作成
昭和 59 (8)		水の愛につつまれて	○ウォーターフェア’ 84 東京 （科学技術館）	・水資源局から水資源部へ改組 （国土庁） ・国際河川博覧会（アメリカ・ニュー オリンズ）
昭和 60 (9)	考えよう水ーくらしと水・資源とし て水ー	水・ありがとう。	○ウォーターフェア’ 85 東京 （科学技術館） ○ウォーターフェア KOBE （神戸市）	・冬期渇水
昭和 61 (10)	築こう 水のある豊かな暮らし	いつも水といっしょ。	○ウォーターフェア’ 86 東京 （科学技術館） ○ウォーターランド（新宿副都心） ○第 1 回水とのふれあいフォトコンテ スト ○ダム子供マラソン（宮ヶ瀬ダム）	・水資源世論調査 ・冬期渇水（西日本）
昭和 62 (11)	水のある豊かな暮らし	水は、ともだち。	○ウォーターフェア’ 87 東京 （科学技術館） ○第 3 回水資源に関するシンポジウム （浩宮殿下による特別講演） （8. 4 ～ 5）	・首都圏渇水 ・第四次全国総合開発計画閣議決定 ・全国総合水資源計画（ウォーターブ ラン 2000）策定
昭和 63 (12)	水のある豊かな暮らし	ぼくの水、みんなの水。	○ウォーターフェア’ 88 東京 （科学技術館） ○水の日記念テレビトーク	・浩宮殿下展示会御台臨 ・竹下内閣総理大臣記念式典臨席
平成元 (13)	水のある豊かな暮らし	水、今日もありがとう。	○ウォーターフェア’ 89 東京 （科学技術館）	・皇太子殿下展示会行啓 ・宇野内閣総理大臣記念式典臨席
平成 2 (14)	水のある豊かな暮らし	水がささえる豊かな社会	○ウォーターフェア’ 90 東京 （科学技術館）	・人と水とのかかわり世論調査 ・首都圏渇水

年・回	サブスローガン	ポスターキャッチフレーズ	実施事項	備 考
平成 3 (15)	水が支える豊かな暮らし	水…みんなの宝	○ウォーターフェア’ 91 東京 (東京都庁)	・皇太子殿下記念式典、展示会行啓
平成 4 (16)	水が支える豊かな暮らし	考えよう、水のあした	○ウォーターフェア’ 92 東京 (東京都庁) ○第 4 回水資源に関するシンポジウム (10. 24)	・環境と開発に関する国連会議
平成 5 (17)	水が支える豊かな暮らし	水がなくては生きられないから ね	○ウォーターフェア’ 93 東京 (墨田区役所)	・「国連水の日」制定 (3. 22)
平成 6 (18)	水が支える豊かな暮らし	すばらしい自然の恵み 「水」を見直そう	○ウォーターフェア’ 94 東京 (墨田区役所)	・村山内閣総理大臣記念式典臨席 ・全国的な渇水 ・人と水とのかかわり世論調査
平成 7 (19)		大切に使おう、かけがえのない 「水」	○ウォーターフェア’ 95 東京 (墨田区役所)	
平成 8 (20)		天の恵み「水」。ありがとう。 「水」を見つめて、20 年。	○ウォーターフェア’ 96 東京 (科学技術館)	・皇太子ご夫妻記念式典、展示会行啓 ・橋本内閣総理大臣記念式典臨席
平成 9 (21)		夏、到来。	○ウォーターフェア’ 97 東京 (科学技術館) ○第 5 回水資源に関するシンポジウム (8. 4 ～ 5)	
平成 10 (22)		みんなで考えよう、 水の大切さ…。	○ウォーターフェア’ 98 東京 (科学技術館)	
平成 11 (23)		「当たり前」ではありません！	○ウォーターフェア’ 99 東京 (科学技術館) ○水源地域からのメッセージ	・新しい全国総合水資源計画(ウオー タープラン 21)策定 ・小淵内閣総理大臣記念式典臨席、展 示会視察
平成 12 (24)		水の力	○ウォーターフェア 2000 東京 (江戸東京博物館)	
平成 13 (25)		水の世紀。川の恵み。	○ウォーターフェア’ 01 東京 (東京都庁)	・国土交通省発足 (1. 6) ・全国的な渇水
平成 14 (26)		水の世紀。川の恵み。	○ウォーターフェア’ 02 東京 (新宿パークタワー) ○第 6 回水資源に関するシンポジウム (8. 2 ～ 3)	・皇太子殿下記念式典、展示会行啓
平成 15 (27)		水の世紀。川の恵み。	○ウォーターフェア’ 03 東京 (科学技術館)	・長い梅雨、冷夏
平成 16 (28)		みんな水から始まった	○ウォーターフェア’ 04 東京 (科学技術館)	・東京の真夏日の連続記録更新 ・局所的な豪雨
平成 17 (29)		みんな水から始まった	○ウォーターフェア’ 05 東京 (科学技術館)	・全国的な渇水 ・局所的な豪雨
平成 18 (30)		水のある幸せ、これからも	○ウォーターフェア’ 06 東京 (科学技術館)	・皇太子殿下 水の展示会行啓 ・17 年末に全国で大雪、降水量首都圏 は平年並み
平成 19 (31)		水がある、いのちがある。	○ウォーターフェア’ 07 東京 (科学技術館) ○第 7 回水資源に関するシンポジウム (8. 3 ～ 4)	・春から 6 月にかけて西日本を中心に少 雨続く、梅雨入りに遅れ、一部で渇 水、夏に記録的高温
平成 20 (32)		水ははぐくむ和の暮らし	○ウォーターフェア’ 08 東京 ○水を考えるつどい (科学技術館)	・中国、四国地方を中心とした渇水 ・局所的な豪雨
平成 21 (33)		将来を安全・安心に暮らすた め、水を大切に使う社会へ	○ウォーターフェア’ 09 東京 ○水を考えるつどい (科学技術館)	・中国、九州北部を中心とした記録的 な豪雨
平成 22 (34)		水の安心・安全を考えよう！	○ウォーターフェア’ 10 東京 ○水の週間記念シンポジウム (科学技術館)	・局所的な豪雨 ・全国で記録的な猛暑
平成 23 (35)		水の恵み～東日本大震災を機 に考える～	○水の週間中央行事「水の展示会」 ○「水の週間」水を考えるつどい (科学技術館)	・皇太子殿下水を考えるつどい行啓 ・平成 23 年 7 月新潟・福島豪雨 ・全国で節電の夏
平成 24 (36)		水の恵みを未来に～健全な水循 環の再生を目指して～	○水の週間中央行事「水の展示会」 ○水の週間シンポジウム (科学技術館)	・平成 24 年 7 月九州北部豪雨 ・利根川水系渇水 ・全国で節電
平成 25 (37)		安全・安心な水のために	○水の週間中央行事「水の展示会」 ○水の週間シンポジウム (発明会館)	・全国的な渇水 ・全国で記録的な猛暑、局所的な豪雨

年・回	サブスローガン	ポスターキャッチフレーズ	実施事項	備 考
平成 26 (38)		水とめぐる水のめぐみ	○「水の日」「水の週間」記念水を考えるつどい(砂防会館) ○水の週間中央行事「水のワークショップ・展示会」	・水循環基本法施行及び水循環政策本部設立 ・水循環基本法における「水の日」の法定化 ・平成 26 年 8 月豪雨(広島、京都など) ・御嶽山噴火
平成 27 (39)		みんなで考えよう！水のこと！	○「水の日」「水の週間」記念水を考えるつどい(国連大学) ○水の週間中央行事「水のワークショップ・展示会」	・水循環基本計画閣議決定 ・平成 27 年 9 月東北・関東豪雨
平成 28 (40)		水とめぐる水のめぐみ	○「水の日」「水の週間」記念水を考えるつどい(科学技術館) ○水の週間中央行事「水のワークショップ・展示会」	・皇太子同妃両殿下 水を考えるつどい行啓 ・全国的な渇水
平成 29 (41)		水を探そう	○「水の日」「水の週間」記念水を考えるつどい(イイノホール) ○水の週間中央行事「水のワークショップ・展示会」	・平成 29 年 7 月九州北部豪雨 ・全国的な渇水
平成 30 (42)		水は、大切でした。	○「水の日」「水の週間」記念水を考えるつどい(イイノホール) ○水の週間中央行事「水のワークショップ・展示会」	・平成 30 年 7 月豪雨
令和元 (43)		私たちを支える水。 考えてみませんか。 訪ねてみませんか。	○「水の日」「水の週間」記念水を考えるつどい(パークタワーホール) ○水の週間中央行事「水のワークショップ・展示会」	・全国的な渇水 ・令和元年 8 月前線に伴う大雨による土砂災害発生(佐賀県、長崎県など) ・令和元年 9 月台風 15 号による住家被害、大規模停電、断水(千葉県) ・令和元年 10 月台風 19 号による堤防決壊(東日本)

※ 全日本中学生水の作文コンクール及び水とのふれあいフォトコンテストは、現在も継続中。

水の週間実行委員会について

昭和 53 年に、水に関係の深い民間団体により、「水の週間実行委員会」が設立され、「水の日」「水の週間」の趣旨に賛同し、この運動をさらに広汎な国民運動として推進することとして、政府・地方公共団体等が行う各種の啓発活動と連携して諸活動を実施している。

水の週間実行委員会設立趣意書

(昭和 53 年 5 月 8 日設立総会)

かつて、ケネディは「21 世紀を制するものは原子力と水だ」と断言し、水問題の重要性を訴えたが、まことに水は国の産業経済の発展のみならず人類の生存に必須なものであり、水問題の解決なくしては将来の発展は考えられないといつてよいであろう。

古来、我が国は、豊葦原瑞穂の国といわれ豊かな水に恵まれ“水の恩恵”を享受してきており、「水は天からもらい水」「湯水のように使う」などの言葉に示されるように水はいつでも好きなだけ使える無尽蔵な資源と考えられがちであった。

しかし、近年における生活水準の向上、産業経済の発展に伴い特に人口・産業の集中が著しい関東・近畿等の都市における生活用水、工業用水等の水需要が急激に増大し、渇水時における水不足や水質汚濁、地盤沈下等の問題を生じるところとなり、ようやく「水」が限りある資源として認識されはじめたところであるが、まだ十分とはいえない。

このため、政府は、昭和 52 年に 8 月 1 日を「水の日」とし、この日から 1 週間を「水の週間」と定め水に関する国民の理解と認識を深めることとして、水に関する各種の啓発運動を実施したところであるが、誠に時宜を得た意義深いものであり、今後とも積極的な展開が望まれるところである。

とりわけ、開発適地の減少等からダム等による水資源開発が次第に困難となり近い将来における水需要のひっ迫が避けられず、今後は水利用の合理化等の施策の推進が必要となっている今日の状況に鑑みるならば、「水の週間」における啓発運動をさらに積極的に推進し、国民一人一人が水資源開発の重要性を十分認識し、水の有限性・貴重さを理解し節水等の具体的な行動に留意するような効果的な運動として盛り上げることが必要である。

このような考えのもとに、政府による「水の週間」の各種の啓発運動と一体となった諸行事を積極的に実施し、もって水資源問題解決の一助に資するものとして、「水」に深いかかわりをもつ事業団体等によつての水の週間実行委員会を設立するものである。

水の週間実行委員会の組織

会長 虫明功臣（東京大学名誉教授）

令和元年 8月 1日現在

団 体 名	実 行 委 員	運 営 委 員	運 営 委 員
全国水土里ネット	専務理事	小林 祐一	所 長
造水促進センター	理 事 長	山本和夫	専務理事
日本治山治水協会	会 長	山口俊一	専務理事
日本河川協会	会 長	松田芳夫	常務理事
日本工業用水協会	会 長	小松一彦	事務局長
日本水道協会	理 事 長	吉田 永	調査部長
全国簡易水道協議会	会 長	小田祐士	事務局長
日本下水道協会	理 事 長	岡久宏史	常務理事
日本ダム協会	会 長	宮本洋一	専務理事
利根川・荒川水源地域対策基金	理 事 長	藤井友竝	事務局長
	常務理事	渡邊和足	
日本水フォーラム	代表理事	竹村公太郎	代表理事
土木学会	会 長	林 康 雄	専務理事
農業農村工学会	会 長	村上 章	専務理事
水資源機構	理 事 長	金尾健司	総務部長
	理 事	◎永森栄次郎	
			森井秀之
			大熊那夫紀
			津元頼光
			萩原寿夫
			青柳伸一
			玉野井晃
			小平鉄雄
			成田儀範
			工藤 啓
			明戸邦浩
			竹村公太郎
			塚田幸広
			小泉 健
			柘植紳二郎

団 体 名	実 行 委 員	運 営 委 員	運 営 委 員
国土交通省（水資源部）	—	大臣官房審議官 水資源政策課長 水資源計画課長 水資源政策課課長補佐 水資源政策課課長補佐	○森田 健児 西口 学 若林伸幸 本間優子 富田 学
東京都（都市整備局）	—	局 長 都市づくり政策部長 都市づくり政策部 水資源・建設副産物担当課長	佐藤伸朗 小野幹雄 高橋 栄二

◎運営委員長 ○運営副委員長

第43回「水の週間」ポスター

私
た
ち
を
支
え
る
水

考
え
て
み
ま
せ
ん
か

訪
ね
て
み
ま
せ
ん
か



水の循環の場

水循環の場は、水が自然から自然へと循環し、生態系を支える。日本は国土の約70%が山地で、水は山から谷間に流れ、川や湖を通じて、各地に届く。水は生命の源であり、水循環の場は、水が自然から自然へと循環し、生態系を支える。水は山から谷間に流れ、川や湖を通じて、各地に届く。水は生命の源であり、水循環の場は、水が自然から自然へと循環し、生態系を支える。

8月1日は水の日

水循環基本法に基づき8月1日が「水の日」と定められました。
8月1日から8月7日は「水の週間」です。

Under the Basic Act on the Water Cycle, August 1st was declared as Water Day.
"Water Week" is between August 1st and 7th of each year.

「水の日・水の週間」関連情報はウェブサイトへ

 <http://mizunohi.jp>

水の日 8月1日 秋分 9月23日

水循環基本法 水資源機構 総務部広報課内

水の週間実行委員会事務局

〒330-6008 埼玉県さいたま市中央区新都心11-2

独立行政法人水資源機構 総務部広報課内

TEL 048-000-6513 FAX 048-000-6510